

日刊 發行兼編輯人 川崎文治 本社同番地（電話六三〇番）印刷所 常磐毎日印刷所

# 常磐新聞

定部金貳拾五圓 廣告費五圓 印刷費五圓 郵費五圓 零售每份五圓

九月五日 刊夕日五月九

### 滿蒙經營の基調

山本 泰太郎

私が滿鐵會社に赴任するに當り、總理大臣の御命令は現内閣の産業立國策に基いて、滿鐵の經營を實行すべし、斯ういふ意味であつた固より當然のことである。それで私は滿洲に参りまして、よく會社全體の現状を見、調査をいたした所が私の見る所を卒直に申すと滿鐵會社の事業は日露戰爭の結果日本が繼承して以來、生産的、經濟的

方面に對しては大體に於て消極的であつたと斷言して差支なからうと思ふ。日本の國家經濟、又産業立國策の上に於て滿洲を完全に利用する計畫を樹て積極的に其の實行を計つたならば資源の開發と言ひ、貿易の發展と言ひ、随分成すべきところが澤山あるやうに認められものである。私は此の積極的事業の經營が日本に於て最も急務であり又我黨の一大責任なりと信するものであります。而して其の根本方針としては苟も母國の産業を脅威せず母國の産業政策に對して貢獻すること

を第一義として事業の計畫を進めてゐるのであります。此の母國の産業を脅威せずといふのは、例せば關東州に於て養蠶を奨励し桑の栽培をしてゐるのであるが、生絲は我輸出貿易の大宗であり、内地の蠶業で十分であるのに關東州でも生絲が生産されるといふことになれば、我生絲の輸出に影響を來すのは必然であるから私は桑の栽培を斷然中止を求め、又我紡績業者は支那で事業を經營するものもある



### 常磐文藝

父（二）（四場面） 小間 繁 敬

N會館の演奏會場。聴衆の中に最前の老人がある。正面のステージに宗雄登場。拍手。老人急に立ち上る。注意されて餘儀なく座る。一問一答

最後の演奏が終る。宗雄退場。宗雄花輪を持つて再び出場。アンコール。静寂。老人座席よりステージにかけ上り宗雄に飛び付く。

老人（夢中で）お、宗雄、お前は—お前は宗雄だ！（と狂氣した様に叫ぶ）

宗雄（驚いて貴方は、だ、だれです。）

老人（だれ？おうおう忘れたか無理もない。俺だ。お前のお爺つあんだでもまあ立派になつたなあ（老人涙ぐむ）

宗雄（狼狽して）貴方はどうかしてゐますね。

老人（私は貴方の様な方は知りませんよ。（語尾が幽かに震へる）

老人（いや、お前は宗雄だ俺の伴だ。十年許り前に、家を飛び出した宗雄だ。ホラ、ここに（指で目の下をさして）黒子がある。宗雄………（赤くなつて逃げ様とする）

老人（堅く宗雄を捕まへ

### 外科新設

部長 藤本 順

婦産科 院長 木村寅次郎

平町新川町 木村醫院

電話一六四番

### 三益玉炭のお奨め

三井物産會社が多年研究の結果專賣特許を得た最もモ文化的な木炭代用高級燃料です。

◎無煙無臭で火付が早く。火持ち良く、火力が強く日常のニヤキにはコンナ便な品はありません。

◎それで値段は大變お安く木炭の三分の一で充分間に合ひます。

◎ドンナニ喰はずさらいの人でも一度使へば必ず御氣召すのが此の玉炭の特長です。

値段ハ壹箱金一圓、個數ハ約八百個内外

お申越次第見本を持參してご覧に供しますからお申越下さい

中 驛 前（電話二三七番）

### 阿部石炭商店

た儘）お前は何故黙つてゐるんだ。何故お爺つあんとお前はお爺つあんでお前は（老人悲し相に鼻をつまらせて）お母もな、お前の事を苦にして、到々死んだぞ。

宗雄 エツ（愕然として目をつむる）

老人 ……（始めて自分の貧弱な服装に氣付いて、悲しげに去る）

（共にしばし黙然としてゐる）

一問一答

宗雄、マネージャー 聴衆退場

一幕

君は、いゝ型の洋服を求めたないか？

いや君コレは例の「ソレ」

正札堂

平町紺屋町 藤沼醫院

電話園五〇七番

たじりわんふ

の本松きよ味風

れ上し召をンバ

ビ甘スク松ミバブレ食

ーナ食ネ一本ツンラモバ

ツケバーバ

キンクンソズムン

一斤十六錢

五錢

目丁四町中

### ヤトモツマ

番四一二話電

優る秀

### 最新型腕巻時計

十型	十石	入上	アングル	7.50	錢
九型	十石	入上	アングル	11.00	圓
全15	十石	入上	アングル	9.50	圓
全15	十石	入上	アングル	13.40	圓
八型	十石	入上	アングル	12.00	圓
全15	十石	入上	アングル	15.00	圓

金質保證

十型	十石	入上	アングル	12.50	圓
全十五	十石	入上	アングル	18.50	圓
九型	十石	入上	アングル	15.00	圓
八型	十石	入上	アングル	17.00	圓

前店商屋釜目丁五

用御省道鐵

### 店計時堂光金

（番六三七話電）

### 科外門專

醫院開始

花内外 柳臟科 病外一 科科般

診察時間（午前八時より午後九時まで）  
（但し急患は此の限にあらす）

安齋外科醫院

平町田町大通り電話四三六番

昨夜白銀町妙見神社の祭禮  
餘興に『盆踊假裝行列』が  
あると云ふので其の審査を  
依頼され出掛けて行つた

### 盆踊假裝を審査して

趣味を發揮して人々の興味  
を喚ぶには充分であつた、  
唯遺憾な事には『盆踊り』  
假裝と云ふ事に限定され  
て居た爲めに假裝が何れも  
其の條件に縛られて従來の  
型を破る事が出来なかつた

### 新味に

乏しい嫌に  
に陥らざるを得なかつたも  
のらしい、若し『盆踊り』  
假裝と云ふ制限がなければ  
は凱旋桃太郎や餅つき兎等  
は其の意匠の點に於て、ま  
た着想の點からも優に第一  
等の資格は充分であつたが  
『あの假裝で踊れるかどう  
か』が審査員間の問題とな

### 心情を

測るに苦し  
むのである、斯かる假裝は  
一種の自己反逆であり人間  
胃潰である、故に踊りの幻  
影を破壊する異端の假裝と  
して審査員の多くは一點も  
其の

### 今後

大いに心す  
べきであらう、見方に依つ  
ては假裝も一種の藝術品か  
も知れない、否假裝者に其  
の位へな見識を持つて臨ん  
で貰へたいのである、然も  
一日から移轉した

### ホスト移轉

平町大  
工町鐵道踏切北部に既設の  
郵便柱は梅香町、四軒町  
櫻町方面の發展に伴ひ其の  
位置變更を要する急なるを  
以つて柳町既設のポストを  
四軒町十字路の地點に九月

## 平小鐵道敷設の 豫定線變更運動起る

江名外三ヶ村の代表者が  
調印集めに奔走

平、小名濱間の所謂平小鐵  
道問題は當時石城郡政友會  
選出元代議士高岡唯一郎、  
白井博之その他有力者の奔  
走努力により第五十四議會  
に於て

### 無事通過

を見昭和  
六年度から敷設着手の運び  
に至つたことは既報した如  
くであるが該鐵道の通過豫  
定線路は小名濱から鹿島村  
を經由し、飯野村の西方を  
通過して平に到るといふの  
が主務省の設計案で、地元  
關係民も今日まで該案に對  
しては聊かの不満もなかつ  
たが

### 最近に至り

## 銅像前には大やがら

若衆連よ、踊れや踊れ!!  
縣社子歟倉の祭禮

既報縣社子歟倉神社にては  
九日供進使參向して例大祭  
を執行し十日は鎌田青年分  
團奉仕して御輿渡御ある筈  
であるが九日夜には境内に  
於て活動寫眞の餘興あり大  
越中佐の銅像前には大樽を  
上げて若衆連の甚句踊りに  
備へ兩日共に間斷なく花火  
を打ち揚げて賑ひを添ゆる  
由であるから當日は全町舉  
げてお祭り気分横溢する事  
であらう

## 複式交換機

番號を一度  
呼べば済む

新平局に  
平郵便局では新築局舎の落  
成と同時に旧もつとも舊式で  
不完全な單式電話交換機を

最新式の複式交換機に取替  
ることになつたのでこれが  
完成すれば現在の様に二度  
づつ番號を呼ぶ必要がなくな  
る

## 俺れと逃げねば 殺して仕舞ふと

他人の妻を短刀で脅迫  
誘拐して告訴さる

尚目下本省で設計中の新  
局舎は鐵筋木柱の兩コン

### 妙見神社の

## 假裝受賞者

昨日審査結果  
既報昨夜平町白銀町妙見神  
社の祭禮餘興としての盆踊  
懸賞假裝に於て優良と認め  
られ賞品を授與された者は  
左記の如くである



### へちまの化粧水

へちまの水をこるには實が  
未だ充分熟さない前がよく  
蔓が一丈以上のびた所を見  
はからつて地上から約三尺

## 失敗して

自殺を企つ

石城郡四倉町新町留吉長男  
深谷丈助(九)は昨年二月磐  
城中學卒業後上京日本藥學

### 感服も

しなかつた  
のであるが唯綺麗であつて  
無難の出来である影法師等  
に多く點數を呉れる結果と  
なつた、其他折角よささう  
な思ひ付きであるに拘らず  
猥褻な型子が幻滅を感せし  
めて失格したのなどもある  
是れは猥褻が滑稽であると  
の履き違ひた悪趣味から出  
発するものであつて

### 生命が

ある、最後  
に此の催をして徹徹尾喜  
びに満さしむる事に努めた  
加藤丈夫氏に敬意を表して  
此の稿を結ぶ 一川崎生一

## 募集

文藝其他投稿  
を募集します

## 勞金を積立

退團者に配當

石城郡山田村林字崎崎青年  
團は十七才より卅五才の男  
子を團員として現在廿五名  
で組織されてゐるが團の事  
業として田の試作を行つて  
ゐる外餘暇を利用して團員  
總出で地主等の賃仕事をな  
しその勞銀を團長が預金し  
て保管し年々三月入退團式  
において合計報告をなすと  
共に退團者に配當する方法  
を講じてゐるが現在の餘金  
は二千圓に達してをり且本  
年度退團者は一人當り百圓  
以上の配當を得てゐる状態  
で一般から他に類例を見な  
い模範事業だと非常に注目  
されてゐる